

府障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7 11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

もうすぐ青年フェスタ!

レポートの準備、着々と! プレレポート発表会



活発に意見交換しました

2本目は、支援学校で働くという「こと」で、レポーターは支援学校勤務9年目の先生でした。はじめはわからないことばかりで教えてもらう側として働いていたけれど、いつの間にか自分ならこうするという主体性が芽生えてきたと話されました。その中で同僚の先生との意見の違いにとまどうことも増え、チームミーティングでの葛藤について発表されました。

1本目のレポートは美術科って結局、何を学ぶん?で、レポーターは知的障害支援学校で勤務されている初任の先生でした。まずは自己紹介を交えて、他府県の高校や美術系専門高校での講師経験、肢体不自由支援学校へ異動した時の

同僚との意見の違いに悩みながら

美術の授業で大切なことは?

とまどいやこれまでの授業を振り返っての反省を語られました。様々な校種での生徒や先輩の先生との出会いから、美術の授業で大切なことは何かを考え、今実践していることを発表されました。

1月21日、青年教職員のための実践力UP!講座として、「青年フェスタプレレポート発表会」を行いました。青年フェスタ1日目の実践交流会「特別支援教育分科会」で発表予定のレポーター3人を含め11人が参加し、当日に向けてレポート内容について意見を交流しました。



みんなでミキサーに触って

紙すきや染色を体験

3本目は「ふれる・つくる」(感触遊び)で、肢体不自由支援学校小学部での授業実践の紹介でした。紙すきや染色などを題材に、子どもたちの様子や授業のねらいに合わせ、自分なりにアレンジして授業を組み立てていることを略案をもとに説明されました。実際に材料を使って体験もさせてもらい、参加者のみなさんは楽しそうに発表に引き込まれていました。

本番に向け、以前の青年フェスタでのレポーター経験者から、自身の反省をふまえての具体的なアドバイスがあつたり、同じ教科や校種の先生から自分の授業実践と重ね合わせての質問が寄せられたりと、さまざまな観点から意見が交わされました。ぜひ、2月18日はレポート交流会に参加しに来て下さい!

青年フェスタにぜひご参加を!

第28回青年フェスタ 箕面観光ホテルにて

2017年2月18日(土)午後~

2月19日(日)午前

日帰り部分参加もOK 保育あります

今回のプレレポート発表会でを行ったレポート発表は1日目のレポート交流会「特別支援教育」です

参加者の感想です

3人の先生の素敵なレポートを聞くことができとても勉強になりました!内容もしっかり話し方とかレジュメとか内容とか本当に考えさせられます!

お話を聞かせてもらい、若い先生の悩みや、実践でがんばっているお話良かったです。フェスタでたくさんの人に聞いてもらえたらと思ったので、誘いたいと思います。

共感できることが多かったです。また、自分もいろいろ取り入れさせてもらって実践に生かさせてもらいます。ありがとうございました。



文部科学省による組織的な天下りの違法あつせんが発覚し、大問題になっています。文科省の元高等教育局長が、2015年8月に退職し、その2カ月後に早稲田大学の教授に就任した件について、文科省の人事課職員が大学側に再就職を打診し、面談を調整したことが明らかになったのです。面談は退職のわずか2日後に行われていました。元局長本人も在職中に求職行為をしたとされ、問題発覚後に就任したばかりの教授を辞任しました。

そもそも高等教育局という部署は、大学の設置や私学助成に権限を持っており、大学は利害関係先そのものです。在職中に利害関係のある企業・団体への求職活動を禁止している国家公務員法違反であることは明らかです。

高級官僚の天下りに対しては、世論の厳しい批判もあり、2007年までは国家公務員法で、退職後2年間は利害関係先への天下りは全面的に禁止されていました。ところが第1次安倍内閣の時に、「官民の交流を損なう」との口実で規制が解禁され、退職後2年以内の天下りが「自由化」されました。しかも B によるあつせんも「合法」となりました。

それ以後、第2次、第3次安倍政権の下で官僚Bの天下りは急増、2015年度は1668件となり、2010年度の2.3倍まで膨れ上がりました。文科省では、退職後2カ月未満で学校法人に再就職した官僚は2011年、15年度の5年間で42人に達し、まさに「天下り天国」です。安倍政権は今になってあわてて他の省庁の調査を始めました。違法な実態の全容解明と、天下り根絶対策の具体化が直ちに求められています。

全国障害児学級・学校交流集会に参加して感想その1

第16回全国障害児学級・学校交流集会が開催され府障教職場からも青年17人を含む27人が参加しました。参加者から感想が寄せられていますので、府障教ニュースの紙面で紹介していきます。

1日目のオープニングの北海道組合員の方のビデオレターや、フォーラムでの質問コーナーを見て、全国に仲間がいることを初めて実感しました。とてもたのしかったです。

その後の講演では教育の難しさを改めて認識しました。子どもの気持ちを考えること、子どもの能力を考えること、子どもの将来を考えること、3つについて考えて答えを出せばいいとわかりましたが、3つの行きつく先が違うことの方が多く、責任を持たなければいけないことにも不安を感じています。正解がわからない中進む不安と、その子の生きにくいこれからのことを考えると、なんて教師は重い職業なんだと思いました。

2日目は、すぐに、しかも幅広く実践で使えそうなことを教えていただいても助かりました。

3日目の高校に関するフォーラムは、知識不足の私にもわかりやすいように基礎知識の資料を出してくださっている方もいて、とてもわかりやすかったです。遠かったけれど、行ってよかったと思います。

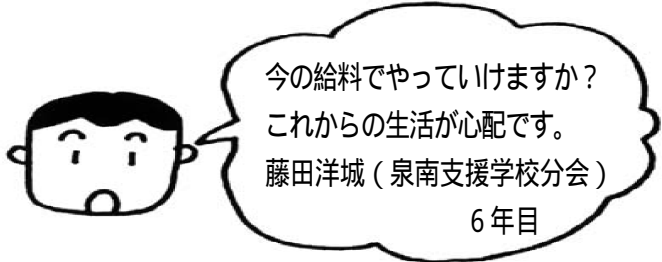
ええる学習交流会でした。このよつな機会を設けてくださり、援助もしていただいていた本当にありがとうございました。

3日目の教育フォーラム「とっておきの授業づくり」学校づくりの実践報告がどれも素晴らしいです。特に印象に残ったのが、滋賀県立草津養護学校の保木先生の実践報告です。授業になかなか入れない、出ていってしまう子どもたちへのアプローチとして、「子どもに任せる勇気が必要」というお話がありました。授業中出ていく子どもを無理に引き戻すのではなく、自分のタイミングで帰って来れるようにしていることでした。

小学部1年・2年合同の授業のVTRを見ると、絵本の読み聞かせの時に、お茶を飲む子がいたり、違う絵本を読んでいる子がいたりしていました。しかし、自分の気に入ったページや、面白いと思った面では、自然と先生の近くに行つて話を聞いたり、みんなと一緒に体を動かして再現あそびをしていました。その様子を見て、子ども自身が決めること、そして、それを教師が信じていることの大切さを改めて感じました。

先輩に聞こう！

Vol.15



働く人の賃金は、1997年をピークにして、平均年収で55万6千円も減っています。政府の調査(国民生活基礎調査)に対して、生活が「苦しい」と答えた人は、1995年時点で42%でしたが、2015年には60%に達しました。また、低所得者の割合を示す貧困率を見ると、日本は1997年の14.6%から、2012年には16.1%に増え、E.C.D(経済協力開発機構)34カ国中ワースト6位になりました。「貯蓄ゼロ世帯(2人以上世帯)先、1997年から2015年の間に3倍に増えています。

こうした現実を見れば、特に若い人たちが、将来への不安を抱いても当然です。その一方で、純金融資産5億円以上を保有する超富裕層と呼ばれる人たちの資産は、1997年から2013年の間に2倍に増えました。なぜ、こんなにも格差が広がってしまったのか、一度ぜひ一緒に考えてみませんか？

私たち公務員の労働基本権は、不当にも制約されていて、その「代償」としてつくられたのが、人勤制度です。大阪府の職員・教職員の賃金水準については、毎年秋に大阪府人事委員会が勧告を行います。大阪府当局も、人事委員会の勧告は「基本的に尊重すべきもの」と、交渉では毎年のように回答しています。

しかし、府当局のこの回答は口先だけに終わっています。2013年には4月にさかのぼって引き上げられるはずだった毎月の賃金が、8カ月分も値切られました。2014年は給料表の2%引下げが経過措置無しで実施されました。2015年も全国で大阪府だけが、毎月の賃上げを見送り、2016年に至っては、4月にさかのぼっての賃下げとなりました。人事委員会の勧告を4年も続けて守らないという、当たり前のルールを無視する大阪府のやり方は全く異常です。この背景には、「身を切る改革」と称して公務員賃金削減に固執する、維新の会の政治的思惑があることは明らかだと思います。

いずれにしても、経済的理由で日々の生活に不安を持って過ごしていると、本を買って勉強したり、旅行に出かけて見聞を広めたりするなど、教員として、人間として成長するための機会がどんどん奪われてしまうと思います。良い教育を行うためにも、自分自身の生活改善につながる賃金改善を求めていくことは、教職員組合の大事な活動の一つです。

一人ひとりの声は小さくても、声をあげる人が増えれば増えるほど、その力は大きくなります。2014年には、橋下前知事が大阪府の財政が厳しいことを口実に強行した賃金カットを、粘り強い交渉で止めさせることができました。引き続き厳しい情勢が予想されますが、あきらめずに一人でも仲間を増やし、将来への不安なく仕事に専念できる賃金を確保できるよう、一緒に頑張ってみませんか？ (戸田勝浩 府障教本部 33年目)